

ユネスコスクール通信

No.2

宮城教育大学国際理解教育研究センター 2015年2月発行

第2回目は、文部科学省が「国連・持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」後のESDの持続的な推進に向けて今年度から開始した「グローバル人材育成のためのESDの推進事業」（通称：ESDコンソーシアム事業）と、昨年11月に岡山で開催された「ユネスコスクール全国大会」の全体会でRice Projectの一環で海外との交流の取組を発信した大崎市立大貫小学校のESDの実践を紹介します。

◆「グローバル人材育成のためのESDの推進事業」とは？

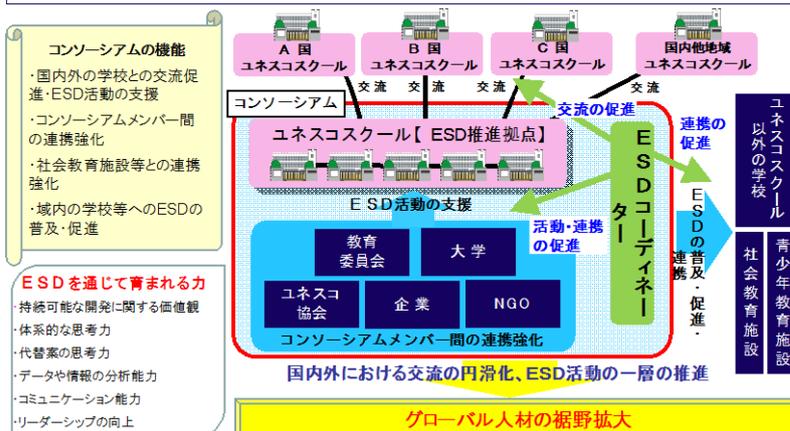
文部科学省は、ポストDESDのESDの更なる推進を見据えて、今年度から「グローバル人材育成に向けたESDの推進事業」を開始しました。本事業は、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的としています。2014年度は、以下の宮城教育大学（東北）、金沢大学（北陸）、三重大学（三重）、奈良教育大学（関西）、大牟田市教育委員会（福岡）の5地域が採択されました。

ESD推進のためのコンソーシアムの形成

平成27年度予算額 87百万円
(平成26年度予算額 39百万円)

文部科学省資料

教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにコンソーシアムを形成し、ESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。コンソーシアムに置かれるESDコーディネーターにより、教育委員会、大学、ユネスコ協会及び企業等のコンソーシアムメンバーの活動・連携の促進、学校、社会教育施設等の域内でのESDに関する連携強化及び国内外における交流の円滑化を図る。これにより、グローバルに活躍するために求められる資質・能力を育むESD活動の幅を広げ、学校に限らない広範な普及を図り、国際的視野を持つグローバル人材の裾野を広げる。



◆「ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム結成大会・成果発表会」

宮城教育大学では、「グローバル人材育成に向けたESDの推進事業」として東北地方のESDのコンソーシアム構築をめざし2月10日にマルチステークホルダーによる「ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアム結成大会・成果発表会」を以下の通り開催します。これは国連ESDの10年後のESDの枠組みをつくる第1歩となる重要な機会ですので、ESD及びユネスコスクールに取り組んでおられる方々、また、関心のある方々は是非ご参加ください。

- 日時 平成27年2月10日(月) 午前：11:00～12:00 午後：13:00～17:40
- 会場 TKP 仙台カンファレンスセンター（ホール4A） ※ホテルJALシティ仙台隣り
- 内容 午前：主旨説明・結成会合、午後：ラウンドテーブル、マルチステークホルダー会議
- 申込み・問い合わせ 宮城教育大学研究・連携推進課研究協力係（川前・北澤）

TEL：022-214-3856 FAX：022-214-3342 Email：kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp

大貫の生態系と文化のつながりを基礎にした未来の担い手育みプロジェクト

大崎市立大貫小学校

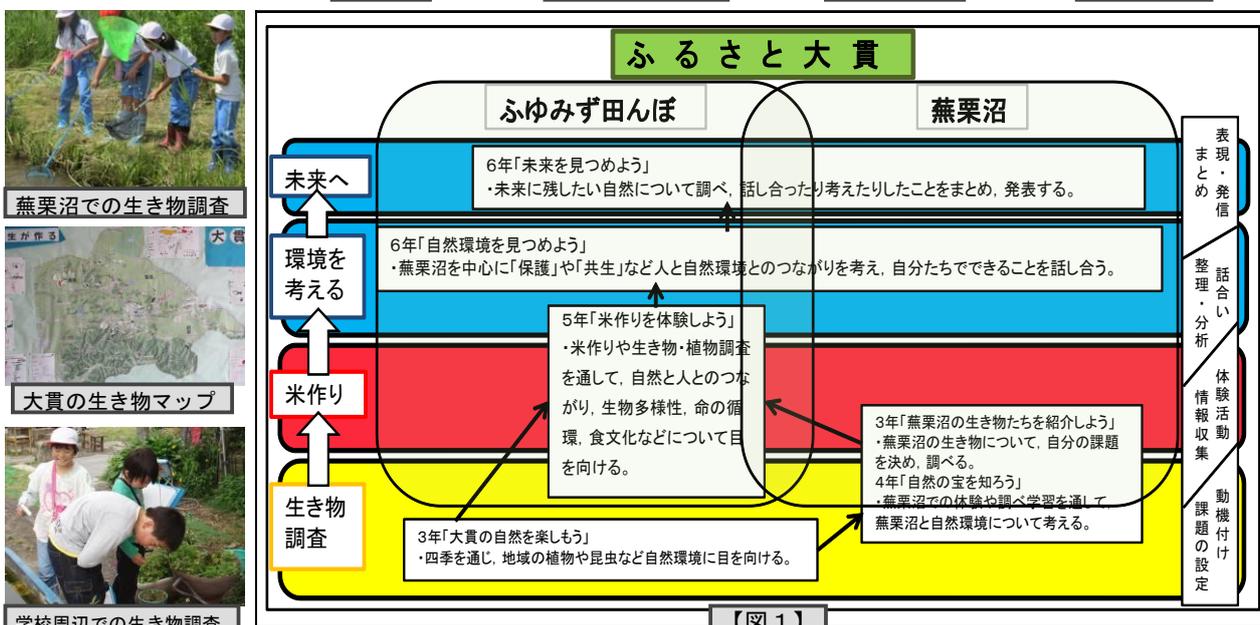
◇教科・領域 総合的な学習の時間 ◇対象学年 3・4・5・6年
 ◇キーワード 環境教育 生物多様性 国際交流 ESD

1 ねらい

- (1) 大貫が豊かな自然環境に恵まれていることに気付かせ、環境と自分たちの生活の関わりについて理解を深めさせる。
- (2) 自然に関わる体験を通して自然環境・生態系保全を大切にすることを育成する。
- (3) 持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成を図る。

2 内容

4年間の大テーマを「ふるさと大貫」とし、【図1】のように活動を連続させている。学校周辺やふゆみず田んぼ、蕪栗沼での生き物調査では、生物の多様性や命の尊さを体感させている。1年を通じた米作りでは、自然と人とのつながりや命の循環、食文化等についてとらえさせている。「環境を考える」「未来へ」では、蕪栗沼周辺の清掃活動をして抱いた思いから、環境省と大崎市の許可を得て手作りの看板を設置した。また、未来の大貫の模型を制作したり、タイやフィリピンの学校と「米」を通してテレビ会議をしたりして、環境や大貫の未来に目を向けさせている。



学校周辺での生き物調査

【図1】

〔成果と課題〕

- ① 豊かな自然環境の中で生活していることや生物多様性についての理解が深まっている。
- ② 環境保全の必要性をとらえたり、大貫の未来へ思いを馳せたりしながら、自分たちでできることを考え実行するなど、持続可能な社会づくりや未来の担い手としての意識や態度が芽生えつつある。
- ③ 国際交流を通して、異文化理解や大貫の良さの発見など児童の視野が広がりつつある。
- ④ 今後、「環境」→「未来へ」の内容を、追究する力や表現する力をどのように育成するかこの点でさらに見直していく。